

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-16

学校名・団体名	港区立筭小学校
HPアドレス	<a href="http://kougai-es.minato-kyo.ed.jp/">http://kougai-es.minato-kyo.ed.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	小学校における国際理解教育と社会貢献活動
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>国際社会を生きる人材として必要な実践的な態度・能力を育成していくため、国際教育を推進していきたいと考え、国際色豊かな環境にある本校の特色を生かし、よりよい教育を工夫し児童が主体となった学校行事を創造していく。</p>	

小学校における国際理解教育と社会貢献活動

「What can we do?」 世界のために私たちができること ～インターナショナルデーを通して～

東京都港区立筈小学校

1. ねらい

- ・全校児童が、力を合わせて自分たちの手で行事を作り上げることを通して、自主性を育て成就感、満足感を味わわせる。
- ・児童一人一人が自分の役割を自覚し、それを成し遂げることによって、参加する喜びを味わい、集団への所属感・連帯感を深める。
- ・世界の文化・日本の文化を紹介し、それを体験することにより国際理解を深める。

2. 特色のある教育活動として

筈小学校は、学区域に大使館も数多くあり、外国籍児童も多く在籍している。日本語学級も併設しており、国際色豊かな学校である。この特色を生かし、国際理解教育を推進し、「子供たちが自ら考え行動できる」行事として、3年前に企画され実行されてきた。全校が世界に目を向けたいろいろな活動が展開される。

3. 「インターナショナルデー」とは

1日、国際理解を深める日。いろいろな国との繋がりのある講師の先生方20名以上をお呼びし、20近くのブースを設ける。そこへ、全校の児童が自分の学びたい国のブースを選び、参加する。講師の先生方には、その国について視覚的、体験的に学べる授業を行ってもらう。日本はもちろんのこと、世界各国の講師の先生方から貴重な学びをたくさん得ることができる。その一日を成功させるべく、高学年が1学期から、様々な国際理解活動、国際協力活動を考え行っていく。



4. 年間計画

- 1) 4・5月 教員の国際理解教育委員会において、計画を話し合う。
- 2) 6月 「ワールド活動」全校児童への講演を行う。[1時間]
  - ・これをきっかけに、各委員長を集め、児童の中央委員会を発足する。
- 3) 7月 各委員会のできることを話し合い、活動に移る。
  - ・インターナショナルデータイム(特別活動)[1時間]
- 4) 9・10月 それぞれの委員会で国際理解、国際協力へ自分たちができる活動を行う。幼小中連携校にも協力を依頼し、活動してもらう。
  - ・インターナショナルデータイム(特別活動)[2時間]
- 5) 10月 「インターナショナルデー」(行事1)(国際科2)[3時間]
  - ・開会式(オープニングセレモニー)閉会式(クロージングセレモニー)
  - ・各国のブース体験 2回
- 6) 11・12月 募金や集めた物資を交流しているベトナムの学校へ届ける
- 7) 1~3月 活動の振り返り、本校にいる日本語学級の児童の発表。

5. 役割分担

各委員会委員長 <中央委員会>

担当する委員会	自主的活動	インターナショナルデーの分担
代表員会	ビデオレター・募金活動	当日の司会進行
広報員会	ポスターづくり・掲示	広報、ポスター、掲示
運動員会	世界の遊びの紹介	会場準備、装飾
図書員会	調べた世界のことの発表	当時の案内、会場準備
保健員会	固形石鹸・タオルあつめ	物資の梱包、当日の案内
ボランティア委員会	物資・ペットボトルキャップあつめ	物資の梱包、表示
集会委員会	集会国旗当て・じゃんけんゲーム	オープニングの歌
放送委員会	昼の放送 世界の国クイズ	当日の放送、移動合図



## 6. 3年目の取り組み

行事を立ち上げてから、試行錯誤で行われてきたインターナショナルデーは、過去の2年間、5・6年生の希望者が中心となって活動をしてきた。活動時間も、朝の隙間時間や休み時間を活用し行われてきたため、積極的に活動する児童は一部だった。教員の担当者も、一部の負担が大きい中行われた。今年度は、教職員全員が参加でき、また高学年5・6年生全員が参加できる形にしていきたいと考え、計画された。組織として国際理解教育委員会を作り、全教員に周知された。それぞれの委員会が活動も当日までの様々な仕事も分担する形となった。また、2名の教員がベトナムのフレンドシップ校へ直接物資を届けることができる「熱血先生プロジェクト」に参加できることになった。5・6年生児童は、自分たちの考えたことが形にしていくと同時に、担当する仕事にも取り組んでいった。自分たちが中心となって活動しているという意識が自然と育ち、どの子も得意な分野で活躍することができた。高学年は、自分たちが進んで活動しないと成立しない行事として、高い意識をもって頑張る姿が見られた。全校で学年の発達段階に応じた国際理解教育ができた。

## 7. 児童の変容

1、2年生は昔遊びを通して、日本の文化に親しんだ。低学年の児童は、高学年の取組を見て、日本の文化はもちろんのこと、世界の国々に興味をもち家庭でも会話が広がっている。

3、4年生はフレンドシップ校との交流活動をした。学校建築に貢献した国々、ベトナム、ネパール、ラオスの子供たちと作品交流をすることで、アジアの国々の友だちとの繋がりを感している。相手の国を理解しようとし、その国の現状を知ること、相手を思いやれる心が育っている。3年生は、手作りのメダルを作成し、現地の運動会で活用されとてもよろこばれた。4年生は、手作りの文化紹介の掲示を作成し、漢字や日本の文化を楽しんでもらえた。

そして何よりも成長した5、6年生は、学校全体を動かし、世界の子供たちのためにできることを考え実行に移していった。その先頭を切って活躍した各委員会の委員長たちの言葉は以下のようなものだった。

「7月から活動を開始し、10月までの短い期間でしたが、世界のためにできることをそれぞれが考え、活動してきました。算小学校の皆さんの協力で、たくさんの資金や、プレゼントが集まりました。ありがとうございました。自分たちのできることは限られていても、それがこれからの大きな一歩になると思います。」「インターナショナルデーは、平和で安全な日本に生まれた一人として、世界のためにできることを考えるよい機会だと思います。今の状態に満足せず、世界にいる同じ年頃の友達、飢えや紛争に苦しむ多くの人たちについて、これからも考えていきたいと思っています。」それぞれが、行事を成功させることを通して世界のことを考えることができていた。国際社会を生きる力を付けている。

## 8. 成果と課題

- ・学校行事を教育課程の中に位置づけ、委員会での仕事分担で、高学年児童全員が参加し活動できるシステムができ、全校でこの行事に取り組むことができた。特別活動の時間や、国際科の時間を有効に活用し、国際理解教育を推進することができた。

- ・ベトナムの交流校に教員が行き、児童がより身近に国際貢献について考えることができた。いろいろな活動を展開することにより、学年の発達段階に応じた国際理解教育を工夫することができた。

- ・しかし課題として、様々な国の講師の先生方の確保が難しさを感じた。児童によりよい学びを提供するためにも、今後は、大使館などの力も借りていけるようにする。

さまざまな学校が、学校行事の時間確保が難しい中、本校は国際科の時間や特別活動の時間を有効に活用し、全校で取り組める特色ある行事として行うことができています。日々の授業を大切にしながらも、仲間と本物に触れ、感動を味わい、これからの国際科社会に向けて、世界の国々の人々と共生する国際人を育てる大事な行事として継続していきたい。